

【横断的目標】 新しい時代の流れを力にする

高千穂町の現状や社会情勢などを踏まえ、計画期間において重点的に推進する分野横断的な3つのテーマ「Well-being（ウェルビーイング）、デジタル・トランスフォーメーション(DX)、ゼロカーボン」を掲げ、本町のまちづくりを推進します。

横—I 住民 Well-being（ウェルビーイング）の向上

～赤ちゃんからお年寄りまで安心して暮らせるまち～

多発する豪雨災害や地震など自然災害の脅威や感染症の流行、健康づくりや出産、子育てなど、様々な生活において不安なく、町民や本町を訪れる人々が快適に過ごせる生活環境が整ったまちづくりを推進することにより、住民 Well-being（ウェルビーイング）の向上を図ります。
※well-being：ここでは住民が高千穂に住み、こうした活動に参加することで居住幸福度（満足度）が高まることを意味している。

◆具体的施策と事業

- 気候変動への理解を促進するとともに、気候変動影響の適応策を推進します。
- 地域防災計画による災害対応力の強化に取り組むとともに、自主防災組織の結成の促進など地域の防災力を高めます。
- デジタル技術を活用し、保護者が子育てに係る知識や支援に関する情報を、また高齢者が健康や病気、介護に係る知識や支援に関する情報を確実に入手できるよう、ソーシャルメディアなどを活用した分かりやすく有益な情報の発信や相談体制の充実に取り組みます。

重要業績評価指標（KPI）名	現状値	目標値	
		令和7年度	令和12年度
町政・まちづくりに対する町民満足度	74.8% (R元)	77%	80%

※町民アンケートにおいて「高千穂町は住みよいと思いますか。」の質問に対し、「住みよい」、「まあ住みよい」と答えた割合。

横—Ⅱ DX(デジタル・トランスフォーメーション)

～デジタルシフトから地域間競争の優位性を確立していくまち～

社会環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、住民をはじめ地域社会のニーズを基に、行政サービスや地域産業モデルの変革を目指すとともに、業務そのものや、組織、プロセス、生活文化・風土を変革し、地域間競争の優位性を確立していく取組を推進します。

◆具体的施策と事業

- 情報通信技術を活用し、行政手続等の利便性の向上を図るため、申請や申請に基づく処分通知等のオンライン化に取り組みます。
- 本町のセキュリティポリシーを見直すことにより、オンライン手続の前提となる体制を整備した上で、システム整備等の方向性を含めたオンライン化の手法を確立します。
- 業務内容や業務プロセス等を抜本的に見直し、再構築を図る取組みをあわせて、先進的なデジタル技術を試行し、行政運営の簡素化・効率化を図ります。
- デジタル実装を通じて、高齢者等に対する助言や援助を含む技術利用の格差を是正し、地域の社会課題を解決に導くとともに、農業、観光業、商工業、医療、福祉、伝統文化の分野における地域の魅力の向上をより高度、効率的に推進します。

重要業績評価指標 (KPI) 名	現状値	目標値	
		令和7年度	令和12年度
行政手続きのオンライン化(27手続き)	- (R5)	6(22%)	27(100%)

横—Ⅲ ゼロカーボン

～豊かな自然と共生し資源や経済が地域内循環する持続可能なまち～

全世界の共通課題である地球環境問題を地域から考え、地域再生可能エネルギーを地域で最大限に活用するなど、資源や経済が地域内循環する脱炭素社会を構築し、持続可能なまちの実現に向けた取組を推進します。

◆具体的施策と事業

- 地域再生可能エネルギーの地域での活用の促進、公共施設への太陽光発電設備設置など、再生可能エネルギーの適正な利用を促進します。
- 電気自動車等の導入促進、省エネルギー設備の導入促進、建築物の ZEB や ZEH の普及促進など、省エネルギーの取組を推進します。

※ZEB (net Zero Energy Building)、ZEH (net Zero Energy House) は、「建築物における一次エネルギー消費量を、建築物・設備の省エネ性能の向上、エネルギーの面的利用、オンサイトでの再生可能エネルギーの活用等により削減し、年間での一次エネルギー消費量が正味でゼロ又は概ねゼロとなる建築物」です。

重要業績評価指標 (KPI) 名	現状値	目標値	
		令和 7 年度	令和 12 年度
温室効果ガスの排出量	67 千 t-CO2 (R2)	60 千 t-CO2	46 千 t-CO2

※令和 12 年度の目標値は、平成 25 年度比 50%削減で算出。